3月21日　おながわ復興まちびらき　竹下大臣ご挨拶

いい天気に恵まれまして、女川の町びらきがこのように盛大に開催されますこと、まずもって心からお喜び申し上げます。復興大臣の竹下亘でございます。

4年前の3.11から本当に苦しんできた今日までの道のり、ここまで町の姿、これからの行く末を見えるところまで努力をしてこられました皆さん方に、改めて心から敬意と感謝を表するものでございます。後ろにできております、うみねこの羽をイメージした、坂先生が作っていただきました、この新しい駅舎といいますか、いろんなものが入っております。今日、ここに石巻線がこの女川駅まで開通するということも相まって、新しい一歩を女川は踏み出すことができる、と確信を致しております。

しかし、しかし、まだまだでございます。お城づくりに例えますと、まあ、大手門ができて、三の丸の一部ができたくらいなところかな、これから海に向かって商業エリア、これは二の丸かなと、本丸ができるのは何時だと、やっぱりふるさとを取り戻す皆さん方がしっかり帰ってくること、子供たちのための学校がしっかりと動き出すこと、そういったことをもって、初めてこの女川の本丸が完成をすると、私たち復興庁はそこまでしっかりと皆さん方と寄り添うようにしてご支援を続けなければならないと。帰りたいなあと思っていらっしゃる方には我々は必ず暖かい家庭と暖かい故郷を、女川を取り返してもらう、そのことを実現することが、復興への道であり、と同時に、この女川の場合は世界の注目も集めております。なにせ町の本当に殆どが流された、一からつくると、作るからには世界に誇れるようなコンパクトシティの見本が見たかったら、この女川に来い、見に来い、こう胸を張れるような故郷をこれから皆さん方と一緒になって私たちも努力をしてつくり上げてまいります。

しかし、大事なことはそこからでございまして、ハードな施設が完成する、家ができると、そして人々が故郷を取り戻す、これは第一段階であります。大事なことは、もう一回、ここは、ここ女川は、俺達、私達のふるさとなのだという、ふるさとの魂をもう一回、しっかりと取り戻していただきたい。それが、あれだけの大災害に遭った女川の復興であると胸を張って言える時期、我々は皆さんと一緒になって必ず迎えなければならないと、そ

して、今日という日は、そこに向かうための大事な、大事な、しかも大きな第一歩であると、このように確信をいたしておるところであります。

この後、私は小学生の子供たちと一緒に列車を見送ります。楽しみです。この子供たちは女川の未来です。この未来を背負ってくれる子供達、しっかりとふるさとの心を持って、根付いて、この大地に根付いていただくことを、心から祈らざるにはいられません。まだまだ、今日で終ったわけではありません。道はまだ半ばでございます。しかし、必ずいいふるさとを創るぞと、須田町長をはじめ町の皆さん方の意気込み、そして今日までやってこられたこの一体感、そうしたものが必ずこの女川を世界に誇るふるさとに、もう一回生まれ変わらせることはできると、確信をいたしております。

ともあれ、大きな一歩を踏み出したことを、今日は皆さん方と一緒に喜び、そして楽しみ、そして将来の夢を語り合いたいと、このように思っておるところであります。町びらきが、須田町長に言わせますと、町びらきがまだ町びらきじゃない、プチ町びらきだと、まさに第一歩という思いもこもっていると思います。その町びらき、皆さんと一緒に楽しむことをお誓い申し上げ、そして改めて必ず復興を成し遂げますと。復興を成し遂げるまでが復興であるということを改めて自らに言い聞かせるとともに、共に歩くことをお誓い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。おめでとうございました。頑張りましょう。ありがとうございました。